

創立147周年

学校便り

令和5年度

No.7



進取

令和5年11月22日発行

阿久根市立阿久根小学校
27学級 児童数439人

子供が主役となる学びを！

校長 中村 一成

11月初旬に実施した地域が育む「かごしまの教育」県民週間には、保護者の皆様をはじめたくさんの方に、子供たちの授業の様子を参観していただきました。ご多用の中お越しいただきありがとうございます。参観後のアンケートで、「タブレットを使った授業。自分たちが小学校時代にはない光景でした。」や「算数の参観をしました。子供が喜んでくれて、とても嬉しかったです。コンパスの勉強がとても懐かしく、先生の子供自身に考えさせる問いかけなど、とても嬉しかったです。」などの意見をいただきました。



また、授業参観をしていた方から「今の授業は、自分たちが受けていた頃と違い、先生が前で説明し子供たちが聞いているばかりの授業ではないのですね。子供同士がよく学び合っているのですね。」というお話も伺いました。学校全体でめざしている授業スタイルに気付いていただきうれしく思いました。



阿久根小では、昨年度から北薩地区の指定を受け「自分の考えを表現し、伝え合うことのできる子供を育てるためには」「子供が主役となる授業とは」をテーマに研究に取り組んでいます。その一つとして、全学級授業の中にスクラムタイムを設けています。これは、学習の課題を一人もしくは複数で考え、答えを導き出したり、自分の考えを広げ深めていったりする対話活動のことです。隣の席の友達や、席を自由に離れて教室中の友達と「これどう考えたの?」「○○さんの考えも私と同じだね。」など学び合う活動を行っています。また、スクラムタイムはラグビーのスクラムの

ように、みんなで協力して課題に立ち向かい、一人だけでラインを越える（解決してよしとする）のではなく、全員で理解のラインを越えていくというイメージをもち、「誰一人取り残さない」という思いも含まれています。11月14日には、研究公開を開き、代表で2年3組が国語、5年1組が社会の授業を行いました。どららもタブレットを上手に活用しながら、自分の考えと友達の考えを比較したり、いっしょに課題を解決したりしながら、授業を進めていました。北薩地区を中心に50名ほどの先生が参観されていましたが、子供たちが意欲的に学習に取り組む姿に感心されていました。

子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、人工知能（AI）等の先進技術が進歩し、社会が急激に変化していると予想されます。そのためこれからは子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極められる「生きる力」をつけることが求められています。学校の授業でも、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、友達と対話する場面（スクラムタイム）をどこに設定するのか、子供に考えさせる場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかなど試行錯誤しながら取り組んでいます。時代とともに学校も授業も変わっていかねばと思っています。